

## 上場来連続増収の高成長企業、「JPX日経中小型株指数」選定で本格的な株価上昇局面へ

## サマリー

## ■ 現場発泡ウレタン断熱施工国内トップシェアの高成長企業

日本アクア（以下「同社」という）は、「人と地球に優しい住環境を創ることで社会に貢献」という経営理念のもと、断熱・防水技術を通じてエネルギー効率の向上と持続可能な社会の実現に貢献する事業を展開している東証プライム市場に上場する企業である。現場発泡ウレタン断熱施工においては国内トップシェアを有しており、戸建部門、建築物部門、防水部門を3本の柱として事業を展開。2013年の上場以来、決算は連続増収を記録中であり、CAGRは10.8%の高成長企業である。

## ■ 2025/12期Q2 決算

2025/12期中間決算は戸建部門における価格戦略を中心としたシェア拡大施策、建築部門におけるセールスマックスの調整等に取り組んだほか、販管費比率を15.0%（前年同期比0.7ポイント改善）に抑え、収益構造をより一層強化した。この結果、売上高15,983百万円（前年同期比21.9%増）、営業利益1,091百万円（同28.5%増）、経常利益1,102百万円（同26.8%増）、中間純利益748百万円（同29.0%増）と大幅増収増益となった。

## ■ 2025/12期 通期業績予想

同社の2025/12期通期業績予想は前期決算発表時の予想からの変更はない。売上高34,360百万円（前期比13.5%増）、営業利益3,004百万円（同16.6%増）、経常利益3,062百万円（同17.6%増）、当期純利益2,067百万円（同12.4%増）を見込んでいる。

## ■ 株価インサイト

2025年の年初来株価推移を見ると、同社株は好調な業績を背景に堅調に上昇しており、Q1決算発表以降はTOPIXを上回る推移が続いている。市場全体が上昇基調にあるなかでも、同社株のパフォーマンスは業績の堅調さを反映したものと見える。さらに、2025年8月29日から2026年8月28日まで「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄に新規選定されたことは、財務健全性や成長力の市場評価を裏付ける材料となった。指数連動ファンドによる買い需要が発生し、需給面の追い風も期待できよう。

決算期	売上高 (百万円)	YoY (%)	営業利益 (百万円)	YoY (%)	経常利益 (百万円)	YoY (%)	当期純利益 (百万円)	YoY (%)	EPS (円)	DPS (円)
2022/12期	25,670	--	2,329	--	2,360	--	1,549	--	47.99	24.00
2023/12期	28,342	10.4%	2,882	23.7%	2,917	23.6%	2,004	29.4%	63.83	32.00
2024/12期	30,265	6.8%	2,576	-10.6%	2,604	-10.7%	1,840	-8.2%	58.55	34.00
2025/12期 (会予)	34,360	13.5%	3,004	16.6%	3,062	17.6%	2,067	12.4%	35.00	
2024/12期Q2	13,112	--	849	--	868	--	579	--	18.46	--
2025/12期Q2	15,983	21.9%	1,091	28.5%	1,102	26.8%	748	29.0%	23.44	--

出所：決算発表資料よりSIR作成 注：SIRでの財務データ処理は短信規定と異なるため記載数字は会社資料と相違することがある。

## Q2 Follow-up



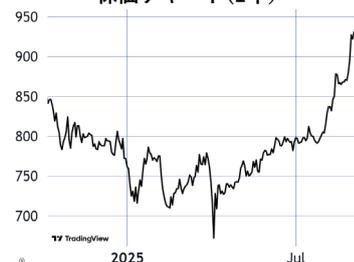
## 注目点

同社の強みは、現場発泡ウレタン断熱材で国内トップシェアを持ち、原料開発から施工・リサイクルまでを自社で一貫管理する体制である。上場来連続増収中であり、社会的ニーズを捉え更なる飛躍が期待される。

## 主要指標

株価 (9/1)	926
52週高値 (24/2/28)	1,104
52週安値 (25/4/7)	650
10年間高値 (23/9/14)	1,125
10年間安値 (16/2/22)	253
発行済株式数 (百万株)	34.76
時価総額 (十億円)	32.19
企業価値 (十億円)	31.85
25/12 株主資本比率	43.8%
26/12 予想PER	14.07X
25/12 実績PBR	2.8X
25/12 実績ROE	18.5%
26/12 予想配当利回り	3.8%

## 株価チャート(1年)



TradingView

## チームカバレッジ

[research@sessapartners.co.jp](mailto:research@sessapartners.co.jp)

本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレームーをご覧下さい。

## 2025/12期 中間決算概要

### ■ サマリー

同社の2025/12期Q2（1～6月）業績は、売上高15,983百万円（前年同期比21.9%増）、営業利益1,091百万円（同28.5%増）、経常利益1,102百万円（同26.8%増）、中間純利益748百万円（同29.0%増）と大幅な増収増益を確保した。売上総利益率は21.9%と前年同期並みであったが、販管費率を15.0%（前年同期比0.7pt改善）に抑制したことが利益率の改善に寄与した。背景には、断熱施工の需要拡大に加え、原価上昇を価格戦略で吸収したことがある。財務面では総資産23,276百万円（前期末比3.3%減）、純資産10,208百万円（同3.2%減）となり、自己資本比率は43.9%と引き続き安定的な水準を維持した。

### ■ 部門別業績動向

#### （戸建部門）

気密測定サービスを組み合わせた提案力強化や大手ビルダー・新規大口顧客からの受注増により施工棟数が前年同期比18.8%増加。売上高は7,548百万円（同20.5%増）と大幅な伸びを示した。同サービスの導入により1棟単価は前期比10%程度上昇しており、差別化に貢献している。また、4号特例（小規模建築物に対する建築審査の簡略化）の縮小による駆け込み需要の影響は限定的であり、構造的な需要拡大が寄与している点が特徴である。

#### （建築物部門）

半導体工場・データセンター・商業施設・高層マンションなどの新設案件を順調に獲得し、売上高は4,815百万円（同20.6%増）を計上した。一部案件では建設費高騰による遅延も見られたが、追加工事や仕様変更対応による単価上昇が収益改善につながった。また、建築工事管理部を新設し、現場の受注から施工、引き渡しまでのプロセス管理を合理化し代金回収の早期化に貢献。また、営業部門では手の届かない案件受注にも取り組んでおり、従来以上にきめ細かい業務遂行を可能とする基盤を整えている。

#### （防水部門）

老朽建築物の改修需要や雨漏りと日射対策を同時に実現する「FUKUGEN工法」やアクアハジクン防水施工などの市場への浸透を背景に、売上高625百万円（同139.5%増）と急成長を遂げた。同社では防水部門の潜在市場を6,000億円と見ているが、競合は少なく、かつ、全国規模で均質なサービスを提供できる企業は同社のみであることもあり、今後の成長領域としての期待が高まる部門である。

#### （原料販売部門）

売上高884百万円（同4.0%減）と唯一の減収となった。取引環境の変動や需要調整が影響したが、事業全体への影響は軽微にとどまった。

#### （副資材・機械・その他）

副資材や機械等の販売が堅調に推移し、売上高2,108百万円（同25.9%増）を記録した。これにより、リカーリング型収益の比率が高まり、安定的な収益基盤形成に貢献している。

## 部門別業績推移

	2024/12期Q2		2025/12期Q2		YoY (%)	2024/12期		2025/12期 (予想)		YoY (%)
	売上高 (百万円)	構成比	売上高 (百万円)	構成比		売上高 (百万円)	構成比	売上高 (百万円)	構成比	
戸建部門	6,261	47.8%	7,548	47.2%	20.5%	13,704	45.3%	14,435	42.0%	5.3%
建築物部門	3,993	30.5%	4,815	30.1%	20.6%	9,499	31.4%	11,881	34.6%	25.1%
防水部門	261	2.0%	625	3.9%	139.5%	719	2.4%	1,500	4.4%	108.3%
原料販売部門	921	7.0%	884	5.5%	-4.0%	2,226	7.4%	2,398	7.0%	7.7%
副資材・機械・その他	1,674	12.8%	2,108	13.2%	25.9%	4,115	13.6%	4,145	12.1%	0.7%
売上高計	13,112	100.0%	15,983	100.0%	21.9%	30,265	100.0%	34,360	100.0%	13.5%
営業利益	849	6.4%	1,091	6.8%	28.5%	2,575	8.5%	3,004	8.7%	16.7%
経常利益	868	6.6%	1,102	6.9%	26.8%	2,604	8.6%	3,062	8.9%	17.6%
当期純利益	579	4.4%	748	4.7%	29.0%	1,839	6.1%	2,067	6.0%	12.4%

出所：同社決算発表資料よりSIR作成 注：SIRでの財務データ処理は短信規定と異なるため記載数字は会社資料と相違することがある。

## 2025/12期 通期業績予想

### ■ サマリー

同社の2025/12期通期業績予想は前期決算発表時の予想からの変更はない。売上高34,360百万円(前期比13.5%増)、営業利益3,004百万円(同16.7%増)、経常利益3,062百万円(同17.6%増)、当期純利益2,067百万円(同12.4%増)を見込んでいる。

部門別売上高で見ると、主力の戸建部門売上は14,435百万円(同5.3%増)と着実な増収を見込み、マンション建築等の増加を見込む建築物部門は11,881百万円(同25.1%増)と大幅増、非住宅の改修案件の増加、アクアハジクンの認知度向上により防水部門は1,500百万円(同108.3%増)と倍増を見込む。

### ■ 業績予想に対する進捗

Q2時点における通期業績予想に対する進捗率は、売上高で46.5%、経常利益で36.0%である。これまでの実績によると売上高のQ2時点での進捗率平均は44.8%、経常利益の進捗率平均が35.1%となっていることから、同社の年間業績は下期偏重型であることがわかる。こうした点を踏まえると、今期の進捗率はまずは巡航速度を維持できているものと言えよう。

### 売上高の中間期時点での進捗率推移

	売上高				
	2021/12期 (百万円)	2022/12期 (百万円)	2023/12期 (百万円)	2024/12期 (百万円)	2025/12期 (百万円)
中間期実績	10,712	11,742	13,158	13,112	15,983
進捗率	45.6%	44.3%	45.3%	42.3%	46.5%
期初通期予想	23,513	26,490	29,021	31,005	34,360
通期実績	23,903	25,670	28,341	30,265	NA
実績/予想	101.7%	96.9%	97.7%	97.6%	NA

※進捗率5か年平均値：44.8%、実績/予想4か年平均：98.5%

出所：同社決算発表資料よりSIR作成

経常利益の中間期時点での進捗率推移

	経常利益				
	2021/12期 (百万円)	2022/12期 (百万円)	2023/12期 (百万円)	2024/12期 (百万円)	2025/12期 (百万円)
中間期実績	335	936	1,400	868	1,102
進捗率	16.7%	44.1%	50.9%	28.0%	36.0%
期初通期予想	2,003	2,121	2,750	3,100	3,062
通期実績	1,429	2,359	2,917	2,604	NA
実績/予想	71.3%	111.2%	106.1%	84.0%	NA

※進捗率5か年平均値：35.1%、実績/予想4か年平均：93.2%

出所：決算発表資料よりSIR作成

トピックス

■ 「JPX日経中小型株指数」構成銘柄への新規選定

同社は、2025年8月29日から2026年8月28日までの構成銘柄として「JPX日経中小型株指数」に新規選定された。同指数は、ROEや累積営業利益といった定量指標に加え、独立社外取締役の比率、女性役員の登用、英文開示などの定性要素を考慮し、資本効率や投資家を意識した経営を行う企業200社を選定するものである。同社はこれまで、ROE・営業利益の着実な成長に加え、複数の女性取締役選任や社外取締役の過半数体制、重要情報の英文同時開示など、ガバナンス体制の強化と積極的な情報開示に取り組んできた点が評価された。今回の選定は、同社が投資魅力の高い企業として市場から認知されたことを意味し、今後も透明性と健全性の高い経営を通じて企業価値の一層の向上を目指すとしている。

■ 施工力の更なる向上

Q2時点における認定施工店は推計850社（前期末比10社増）、工務社員は245人（前期末比44名人増）、技能実習生は109名（前期末比3人減）となり、推計合計1,204人（前期末比51名増）となった。2023年からは年間100名増に取り組み中であり、6か月経過時点での51名増は順調に進捗していると言えよう。競合他社に比して東証プライム上場企業としての安心感、完全週休二日制などの健全な労働環境を背景に、引き続き施工力の更なる向上を目指す。

同社の施工力推移



出所：同社決算発表資料および同社への取材によりSIR作成  
注：2025/12期Q2の認定施工店数と合計件数は推計

株価インサイト

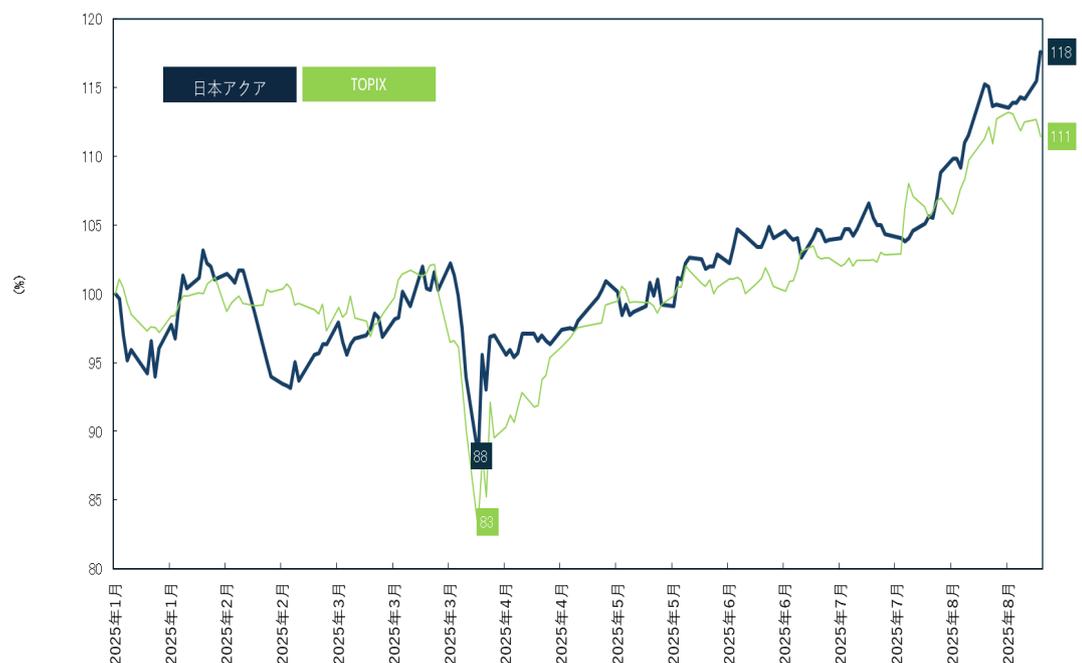
■ 業績を反映し株価は漸次上昇傾向

2025年1月1日を基準日とする年初来の株価推移を見てみると、直近数か月では好調な業績を反映し、漸次上昇傾向にある。今年は株式市場全体相場が堅調に推移しており、TOPIXも年初来上昇傾向にある中で、同社株価も堅調に推移している。特に2025/12期Q1決算発表以降、TOPIXをアウトパフォームしている期間がほとんどであり、株式市場における評価が同社の堅調な業績を反映しつつあることがうかがえる。

【同社の決算発表】

- ・ 2025年2月7日 2024/12期通期
- ・ 2025年5月9日 2025/12期Q1
- ・ 2025年8月8日 2025/12期Q2

同社株とTOPIXの年初来推移



出所：SPEEDAよりSIR作成

■ 「JPX日経中小型株指数」構成銘柄への新規選定も追い風に

既に述べたように、同社株は2025年8月29日から2026年8月28日までの構成銘柄として「JPX日経中小型株指数」に新規選定された。同指数は、収益性や財務健全性に優れた中小型株を対象とし、ガバナンスや成長力に対する一定の基準を満たす企業群で構成されている。そのため、新規採用は市場から同社の事業基盤や財務体質が高く評価された証左であり、投資家に対して安心感を与える材料となる。

短期的な株価インパクトとしては、指数に連動するパッシブ運用ファンドによる機械的な買い需要が発生する点が挙げられる。JPX日経中小型株指数に連動したETFや投資信託は、新規採用と同時に一定数量の株式を組み入れる必要があるため、その需給要因が株価の上昇圧力として働く。また、インデックス採用を契機に取引高が増加し、株式の流動性が向上することも見込まれる。流動性の改善は投資家層の拡大を促進し、株価の安定性を高める効果を持つ。

一方、中長期的な観点では、同指数の構成銘柄となること自体が企業価値の評価改善につながる可能性がある。機関投資家にとっては、指数採用が一種の品質保証のような役割を果たし、投資対象としての注目度が高まる。これにより、従来アクセスしにくかった長期志向の資金や海外投資家の資金流入が期待できる。さらに、市場での評価プレミアムが付与され、PBRやPERの水準に上方バイアスが働く可能性がある。

もっとも、こうしたポジティブ効果は持続的な業績成長と財務健全性の維持が前提となる。指数採用はあくまで現時点での評価に過ぎず、将来的に業績が低迷すれば除外リスクも存在する。しかし、同社を取り巻く事業環境は依然として良好であり、省エネ住宅需要や環境配慮型建材へのニーズ拡大といった追い風が続いている。さらに、同社が進める効率的な施工体制や販売チャネルの強化策は着実に成果を上げつつある。これらを踏まえれば、中長期的にも業績拡大と企業価値向上が大いに期待できる局面にあると言える。

## ディスクレーマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



**SESSAパートナーズ株式会社**

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a  
[info@sessapartners.co.jp](mailto:info@sessapartners.co.jp)